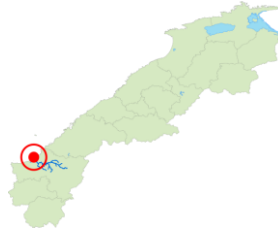


～調べる、伝える、実践する協働作業～

益田川と海をつなぐ自然環境保全活動組織

益田川下流域について

益田川は、島根県益田市の春日山嶺を源に、北西に流れ日本海に注ぐ二級河川である。益田川に面す海浜前面の浅場では、漁業者による徹底した資源管理により漁場が復活し、特に中須海岸は日本海有数のチョウセンハマグリ漁場で「鴨島はまぐり」のブランドで流通しており、ハマグリ資源の保全活動が重要となっている。



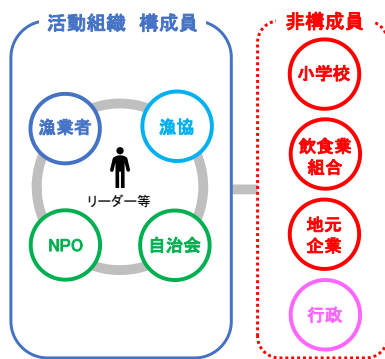
益田川下流域の現状と課題

保全活動の範囲は、益田川下流域にあり、その両岸には市街地が広がっており、生活用水や田畑などからの排水によって、水質の問題を抱えている。また、河岸に広がるヨシ帯の刈取りが長年行われておらず、上流からの生活ゴミなどがヨシ帯の中に堆積し、その生育やそこで暮らす生物への悪影響、景観の劣化が問題となっていた。

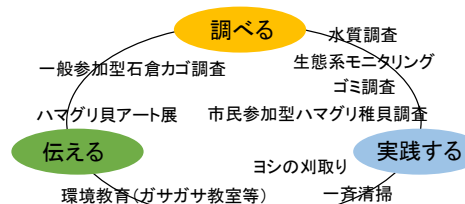


活動内容

「益田川の水環境再生（ヤマトシジミ復活）」と前浜における「チョウセンハマグリ資源の安定化」の目標達成のため、漁業者だけでなく地域住民や行政との連携が不可欠であるとの認識から、河口のハマグリ漁業者とNPOとによる協働体制が築かれ、NPOメンバーが中心となり活動を進めている。



活動内容は、3つの柱に沿って、ハマグリ関連調査、ヨシ帯の刈取りやゴミ除去などの取組を行うとともに、環境や資源保全に関する課題は、益田川流域住民の一体となった取組が不可欠であり、複数世代にわたる継続した取組も必要であることから、教育・啓発活動に重きを置いた取組を展開している。



活動実績

(1) 調べる

海岸において、チョウセンハマグリ資源の適切な資源管理を行う上でのデータ取得を目的に、継続的にチョウセンハマグリ資源の稚貝の殻長分布、生息密度分布、稚貝発生状況、ツメタガイの食害跡の有無などを調査している。

ヨシの刈取りと間引きを行っている益田川下流域において、ヨシ帯の環境変化を定量的に観察するため、ヨシの高さとヨシ帯に住むクロベンケイガニの生息密度を、ヨシ刈作業時期にあわせて調査・記録している。また、益田川に生息する魚類や底生生物等の生物資源量を把握するため、石倉カゴを導入した調査を実施しており、定点における調査結果の定量性を向上させている。

下流域における一斉清掃時には、ゴミの種類や量の推移を把握するため、定点でのゴミ調査を行っている。

(2) 伝える

チョウセンハマグリ資源の稚貝調査には県内高校生などが、ゴミ調査には地元小学校の児童が参加するなど、環境教育を併せて行っている。また、活動組織が行うイベント等においては、様々な講義やフィールド体験を行う中で、子供たち自ら問題提起と問題解決について考えさせる「アクションラーニング」の手法と取り入れている。



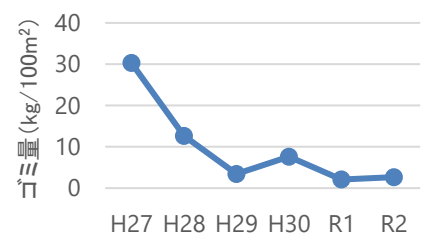
また、地元ハマグリ資源の存在とそれを育む自然環境の貴重性を広く周知するため、「ハマグリ貝アート展」を毎年開催している。200作品以上の応募があり、WEB上での全作品を紹介するなど広くPRして、認知度の向上を図っている。



(3) 実践する

秋期にヨシを刈取ることにより、翌年のヨシの成長と、それに伴う水質浄化作用を促している。

活動範囲内のゴミの回収を、年数回実施しており、本活動には多様な団体からのボランティアが参加している。長年手入れされていなかったヨシ帯が作業の障害となっていたが、刈取りを始めて以降、ゴミの収集効率が上がり、同区間のゴミはほぼ一掃されている。



活動の成果と今後の課題

活動組織の取組への多様な団体や周辺住民等の巻き込み、体験型イベントや展示会の開催等によって、組織のネットワーク体制が構築・強化され、活動の促進につながっている。

目標実現に向けては、長い年月を要し、地道なデータの計測・蓄積が必要である。また、基本理念を維持し続けることが重要であり、それが地域に根付き、次世代への継続に繋がり、地域の豊かな環境形成に資する。そのため、後継者を育成し、世代を超えた活動を継続していきたい。